

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	26年度
事業名	地域介護予防活動支援事業	担当課	福祉課
細分化した事業名	ことぶきテイルーム事業 いきいきほっとサロン事業 老壮大学支援事業		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	誰もが安心して暮らせるまちづくり
	政策	地域の絆を深める福祉社会の実現
	施策	高齢者福祉の充実
関連する個別計画等	高齢者福祉計画・介護保険事業計画	根拠条例等

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	高齢者の介護予防への意識を高め、地域における自主的な介護予防活動へとつなげる。
事業の手段	社会福祉協議会へ委託 申請決定は「市が行い、事業の運営、支払等は社協が行う。」
事業の対象	高齢者

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		23年度	24年度	25年度
A	事業費 (千円)	4,667	5,022	5,845
財源内訳	国・県支出金	1,750	1,883	2,192
	その他(使用料・借入金ほか)	2,917	3,139	3,653
	一般財源			
B	担当職員数(職員E) (人)	0.3	0.3	0.01
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	2,045	2,006	
D	総事業費(A+C) (千円)	6,712	7,028	5,845
主な事業費用の説明	平成25年度から委託料			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、23年度(6,819千円)、24年度(6,687千円)、25年度(6,491千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
活動指標	1	ことぶきテイルーム 登録団体 活動回数 高齢者参加者数	2 43 164	2 36 144	3 47 260
	2	老壮大学 登録者数 開催回数 参加者数	263 12 1,712	314 12 2,102	307 12 2,033
	3				
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	登録団体数や活動回数も増え、妥当である。			
	2	H24から、会場がにこりに移ったこともあり、参加者が増えている。参加しやすい環境になっている。			
	3				

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値			
			23年度	24年度	25年度	
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	1回あたりの参加者数	参加者数/活動回数	3.8	4.0	5.5
	2	1回あたりの参加者数	参加者数/開催数	142	175	169
	3	参加率	1回あたりの参加者数/登録者数	53%	55%	55%
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない				
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	新たに、北東児童センターで開催されるようになり、交流の機会も増え、ほぼ妥当である。				
	2	老壮大学への加入は、ほぼ横ばいであるが、外出や交流の場の提供として、効果的である。				
	3	1回あたりの参加率も、横ばい状態で安定しており、定期的に参加しているように思われる。				

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 一部改善 (事務的な改善を実施する) <input checked="" type="checkbox"/> 全部改善 (内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小 (規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止 (廃止の検討が必要)
事務事業の改善案	改善の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)
	26年度の改善計画 (今後の事業展開説明) 高齢者の外出等の機会としては、有効な事業と考える。 事業の主体となっている、地区や老人クラブ、委託先である、社協と協議しながら検討していく。
過去の改善経過	平成24年度から、老壮大学開催会場を二コリへ変更 平成25年度から社会福祉協議会へ委託 平成25年度 ことぶきテイルームは、市内4つの児童センターで開催可能に変更
課長所見	期待された効果があがっている。経費増には注視が必要である。